

松蔭 校長室だより

2026年 5月 1日 発行

—校長から保護者の皆様へのメッセージです—

松蔭中学校・松蔭高等学校
校長 浅井宣光

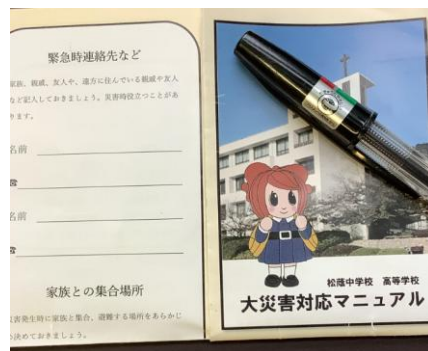
見よ、きょうだいが共に座っている。なんとこの恵み、なんとこの喜び（詩篇 133：1）

学校の危機管理

年度初めの避難訓練を実施しました。校舎内の火災発生を想定し、各教室から運動場への避難ルートと緊急点呼の態勢を確認しました。大災害や不審者侵入の場合も同様に、運動場で緊急点呼を行うことになっています。2学期以降には、大地震想定や事前告知なしの訓練も予定しています。毎回の訓練では、登下校中や家族と離れて一人で外出している時の心がけとして、①パニックにならず落ち着いて行動すること、②自分の命は自分で守ること、③余裕があれば周りの困っている人に手をさしのべることの3点を確認しています。特に生徒手帳に入れて常時携帯することになっている「大災害対応マニュアル」（右下写真）には、安否確認情報の連絡手段や、家族と合流できる緊急避難場所についても記入しておくよう伝えています。ぜひ、ご家族で話合う機会をお持ちください。

学校では、今年度版の「諸警報発令・緊急時および大災害発生時の対応マニュアル」を教職員で共有・確認しました。気象警報発令時の最寄り駅（JR 灘駅、阪急王子公園駅）の教職員配置、「校外活動に関する危機管理マニュアル」についても確認しています。

校内には、非常用備蓄品（非常用使い捨てトイレセット 5千回分、非常食 2千食分、非常用飲料水2千本、災害対応飲料自販機 2台、ブランケットや生理用品など）を保管しており、長時間の学校滞留を想定し備えています。教職員一人ひとりは、自分の命と家族の安全を守ると同時に生徒とその家族への支援、そして学校再開に向けた準備を併せて行う責務があることを意識し、万々に備えることを申し合わせています。日常の学校生活はもちろん、校外行事やプログラムの実施にあたり、気になる点やご心配などあれば、ご遠慮なく学校までご相談ください。



5月11日（月）から夏制服 移行期間をもうけます

大正時代には、モダニズムの時代風潮のなかで洋装が一般的になりました。これに合わせて女学校が洋装の制服を採用し始めました。セーラー服は、明治時代の終わり頃、はいくつかの学校が体操服として採用していたこともあり、多くの女学校でこのスタイルの制服が採用されました。松蔭も洋装制服の導入を計画し、当初は、セーラー服、ワンピース、ツーピースの3種類のデザインが提案されました。検討の結果、現在のワンピーススタイル制服の原型となる制服が採用されました。



<ネクタイ中央にも SMS マーク。ボタンにはスクールモットー>

SMS マークは当時の美術科教員の考案で、「神様はここ（胸）におられる」ことを意味しています。ワンピーススタイルの制服制定から101年目となる今春、一部コースが共学となり、男子生徒にはスラックス・ジャケットスタイルの制服を導入し、併せて女子もスラックスタイプも選べるようにしました。ジャケットに合わせるネクタイの中央にSMSマークをあしらひ、ワンピース制服と同様に、神様はいつも一緒にいてくださる、という意味を持たせています。また、ジャケットのボタンには、スクールモットー“Open He

art Open Mind“の文字が小さく記されています。新年度が始まり1か月が経ちました。朝、校門前道路の歩道を見慣れたワンピース制服が続々と登校するなか、ジャケットにネクタイ姿の男子生徒がちらほら混じります。スラックスを着用する女子生徒もいます。違和感なく溶け込んでいる印象があります。

さて、本題の夏制服への衣替えは標題のとおり5月11日(月)からです。ただし、気温の変化や個人差に配慮するため、一定期間は「冬服・夏服どちらでも可」とする移行期間をもうけます。移行期間は2週間とし、5月25日(月)からは、全員が夏制服を着用します。これまでワンピース制服のみでしたから一斉日としていましたが、新たに「半そでシャツ・スラックス」制服も男女生徒とも着用できるようになりました。生徒一人ひとりが体調管理を優先しながら、白いワンピース制服とともに新たな夏制服へと無理のない形で移行できるようにしたいと思います。移行期間中は、天候や個人の体調面を考慮し、各ご家庭で夏服・冬服のいずれかをご判断ください。「半袖シャツ・スラックス」の導入や移行期間の設定は、ダイバーシティを尊重する時代にあって、「伝統」と「刷新」のバランスを取る学校の取り組みの一つとご理解いただけますと幸いです。神戸の初夏の風物詩に新しいシーンが生まれます。

神戸を活気づける地元プロスポーツチーム 高校AAコースとの連携も

「校長先生、昨日の甲子園見ました？」と生徒から尋ねられました。阪神タイガースの投手陣が総崩れし9-16で大敗した翌日のことです。熱烈な阪神ファンだというその生徒は大変悔しそうでした。「将来の就職は絶対タイガース球団職員に」と広言するかつての松蔭生がいました。地元阪神間にある学校ならではのようです。虎党の本拠地は西宮ですが、神戸にもプロスポーツチームがたくさんあります。毎年1月、神戸市の「二十歳を祝う会(成人式)」が開催されるノエビアスタジアム神戸は、ヴィッセル神戸(サッカー)、INAC神戸レオネッサ(女子サッカー)、コベルコ神戸スティーラーズ(ラグビー)のホームスタジアムになっています。バスケットボールBリーグの神戸ストークスは、昨年春オープンした「GLION ARENA KOBE」を本拠地として活動を始めました。アリーナ内外には多くの飲食店も併設され、「TOTTEI PARK」として神戸ウオーターフロントの新たな観光スポットになっています。ほかにもアルコ神戸(女子フットサル)、神戸ファストジャイロ(女子ラグビー)、アイスホッケーのスターズ神戸などのプロチームがあり、いずれも市内に本拠地をかまえます。ホームゲームには地元ファンらが駆け付け、熱い応援を繰り広げます。活気ある150万人都市を目指す神戸にとって、地元プロスポーツチームの「元気な姿」が大きな力であるように思います。

高校AA(アスリート&アーティスト)コースがスタートするにあたって、これらプロスポーツチームのジュニア育成組織のコーチや担当の方々と話をする機会がありました。AAコースでは、自分が専門的に取り組む競技種目や舞台芸術・音楽などの活動と、普通科高校での学業を両立させるとともに、課外「AA特別講座」ではセカンドキャリアを見すえた学びを提供しています。学業は学校が、各所属団体が競技や専門種目について指導します。そして、何よりも大事な「人間力」は、学校と各所属団体の両方が協力して育成する、というのがこのコースのコンセプトです。

松蔭では、学院全体として様々な形で地元神戸市との地域連携や地元企業との連携を掲げており、一昨年から大学と中高はともにINAC神戸レオネッサのサポーターになっています。ノエビアスタジアム神戸へ試合観戦に行きますと、ゲート前に並ぶ幟(のぼり)に校名が掲出されています(右写真)。トップチームにはAAコースの生徒が選手登録されていますし、他の生徒たちもボールパーソンとして試合のお手伝いすることがあるそうです。私も春休み中、試合観戦にスタジアムまで足を運びました。

今月はAC長野戦(5月3日 日曜)、サンフレッチェ広島戦(5月16日 土曜)がノエビアスタジアム神戸で開催されます。地元プロチームの健闘を祈ります。

